

景況レポート

(2月分・情報連絡員 80名)

県内景況は前月と同水準で推移

～エルピーダメモリ株の影響で先行きに不安～

【概況】2月の県内景況は、前年同月と比較して、景況が「好転」したとする向きが7.5%(前月調査3.8%)、「悪化」が42.5%(同37.5%)で、業界全体のDI値は-35.0となり、前月調査と比較して1.3ポイント下回った。

内訳として、製造業全体のDI値は-31.2で前月調査と同水準となった。また、非製造業全体は-37.5で前月調査(-35.4)と比較して2.1ポイント下回った。

電子部品ではTDK株の工場閉鎖やエルピーダメモリ株の会社更生法申請等が発表され、業界のみならず地域全体に与える影響は大きい。さらに、中東情勢が緊迫しているため原油価格も高騰しており、先行きに不安材料が多い状況となっている。

(回答数:80名 回答率:100%)

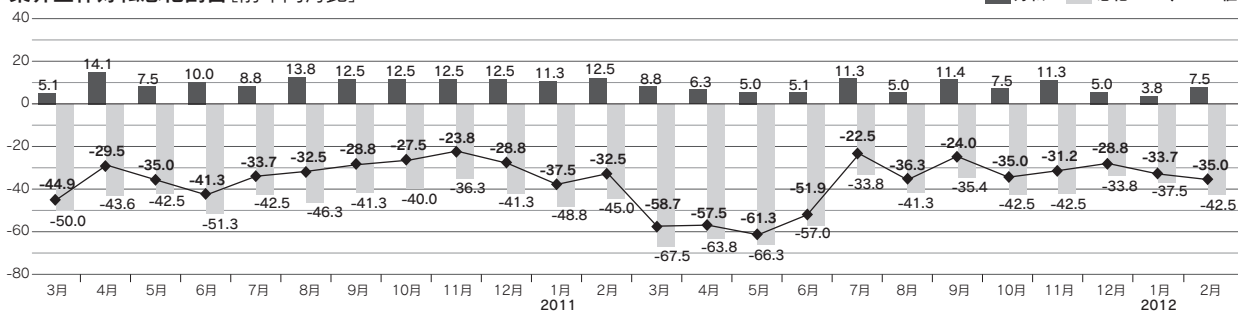
項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇人員
業種						
製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁
非製造業	☁	☁	☁	☁	☁	☁

【凡例】

 [天気図の見方] 前年同月のDI値をもとに作成しています。
 快晴 30以上
 晴れ 10以上 30未満
 くもり △10以上 △30未満
 雨 △30以上 △10未満
 雷雨 △30以下

※DI値とは、Diffusion Index (ティフュージョン・インデックス) の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

業界全体好転悪化割合[前年同月比]



業界の声

清酒製造	1月の清酒出荷量は、前年同月比103.3%となった。タイプ別では、吟醸酒が前年同月比121.6%、純米酒が106.6%、本醸造酒が81.6%、レギュラー酒が103.6%という状況である。震災復興で東北管内の清酒の出荷量が伸びており、本県にも波及効果があるように感じている。
乳製品製造	生産量は前年並みに戻りつつあるが、燃料費の増加等で収益が悪化している。
繊維製品	アパレルメーカーの売上が伸びていないため、春夏物の追加生産の受注は難しいと予想される。秋冬物の生産が始まるまでの4月～6月は、例年どおり仕事が少なく、厳しい状況となりそうである。
一般製材	国産材と北欧材との価格差が大きく、県外のプレカット工場やハウスメーカーが外材にシフトしているが、国産材のメーカーは外材の安さに対抗できない。雪解けとともに住宅建築が動き出し、木材需要が回復するのを待っている状況である。
鉄鋼	震災復興関連では岩手県三陸方面の物件や、津波被害による改修工事の見積もり依頼があるが、実績に結びついていない。県内の新規物件は皆無と言っていい状況で、景況は冷え込んでいる。
燃料小売	LPガスの卸値が少しずつ上がっているため、販売価格を値上げすることになりそうである。
自動車販売	2月の新車販売台数は、登録自動車2,173台(前年同月比131.0%)、軽自動車2,071台(同131.9%)で、合計4,244台(同131.4%)であった。エコカー補助金・エコカー減税の効果と低燃費車種の市場投入により、新車登録台数が増加している。
石油販売	ガソリン1ℓ当たり141円で前月比1円引き上げ、軽油1ℓ当たり124円で前月と変わらず、配達灯油は18ℓで1,649円と前月比28円の引き上げとなった。イラン情勢の緊迫化により原油価格が高騰して仕切り価格も上昇しているが、小売価格への転嫁は進んでいない。
クレジット	同じ商品でも店頭よりもインターネットの方が安く購入できるため、インターネットを通じたカード利用が増加している。品目別では、節電・節水の需要や外食の手控えにより、洗濯機や電子レンジなどが好調である。
旅館	例年、冬季は入り込み客数が少ない。それに加えて、原発事故による風評被害が依然払拭されていないため客数が減少しているように感じている。
トラック運送	2月に入り、関東から福島県へ、関西から秋田県へ、アルミ材等の火力発電所用資材の輸送が出てきた。また、秋田県から関東へ鉄骨の輸送が増加したが、それ以外の秋田発の荷物の動きは2月中旬頃から悪くなっている。